

# 五中・夢バトン

豊中市立第五中学校  
学校だより  
令和4年(2022年)  
2月7日  
発行責任:校長 石井 武

★みんなで『春』を迎えるために～正念場の2月！

3年は進路決定に、1・2年は学年末テストに向けて



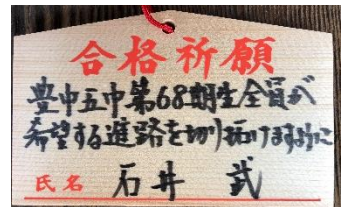
正念場：その人の価値や能力を発揮すべき大事な場面、重要な局面。

新型コロナウイルス第6波、非常に感染力の強いオミクロン株による猛威が広がっています。市内小中学校においては、陽性者や濃厚接触者の増加による学級閉鎖や学校休業などを余儀なくされている状況があり、本校においても対象者に向けたオンライン授業配信等を日々行っているところです。今、大切なことは、マスク、手洗い、換気、密を避けるなど基本的な感染予防対策を徹底すること、もし陽性反応が出たとしても、病院または家庭内で治療に専念し、感染を広げないことです。今まさにコロナ感染を「自分ごと」としてとらえることが大事であり、感染した人を非難したり中傷したりすることは絶対にないようにしてください。人権と仲間を大切にすること豊かな五中生であってほしいと願っています。



さて、3学期のスタートから今日で20日目、3年生にとっては20/44、1・2年生にとっては20/50を経過しました。「時間」を意識し、1分、1時間を大切にされた学校生活が送れているでしょうか？ そしてもよいよ3日後、3年生は私立高校等の入学試験に挑みます。感染予防や体調管理を第一に考えて、これまで積み重ねてきた努力と自分自身を信じて、精一杯実力を発揮してくれることを願っています。また、2/17・18は公立特別選抜、3/9は公立一般選抜入試とまさに正念場の一か月を迎えます。1月末の面接練習も真剣そのもので、大変立派な態度でした！

私も毎年の恒例ですが、初詣を兼ねて学問の神様で有名な天満の天神さん(大阪天満宮)で3年生のみなさんの進路決定をお祈りし、絵馬に願いを託してきました。68期生全員が、「一人も残さず最後の一人まで」希望する進路を切り拓けるよう五中の先生方も後輩の1・2年生も心から応援しています。頑張ろう、68期生！



また、1・2年生は2週間後に今年度最後の定期考査となる「学年末テスト」があります。1年間の頑張りを十分に発揮し、今年度の締めくくりとしてふさわしい結果となるようコツコツと努力を積み重ねましょう。次の学年につなげるためにも、最高の頑張りを大いに期待しています！



	2/22 (火)		2/24 (木)		2/25 (金)		
	1限	2限	1限	2限	1限	2限	3限
1年	理	技家	英	数	社	国	保体
2年	国	保体	理	英	数	社	技家

ほんこうもとしよくいん **★本校元職員** さいき けいぞうせんせい **齊喜慶三先生が歩道調査にかけた願いとは・** ほとうちょうさ **ねが**

さいきけいぞう 齊喜慶三先生は 34 年間、豊中市の中学校教員として勤務され、2007年4月から2017年3月(定年退職)まで五中の美術科教員、支援担当や進路担当として活躍されました。残念ながら2017年10月、病気のため亡くられました。享年61歳でした。齊喜先生は私の4つ上で、20歳代から私にわたりいろいろな場面でお世話になりました。豊中市の「ともに生き、ともに学ぶ」教育に関わり、その最前線で活動を続けられ、先生が11年かけて取り組まれた「豊中市歩道マップ」が毎日新聞「余録」(2017年8月23日)に掲載されました。

先生の思いや願いを感じ取ってもらえたらと思います。どんなマップを作ったのか興味がある人は、右のURLにアクセスしてみてください。

【それでも街にてかけよう!】  
<https://www.ekisuta.jp/hodou/index.html>



**余録** 「歩道は恐ろしい。だから車道を通る」。電動車椅子を使う知人が繰り返す言葉に、大阪府豊中市の齊喜慶三さん(61)は耳を疑った▲知人は何度も縁石の段差で車椅子ごと転倒した。車止めのポールに阻まれ狭い歩道をUターンできず立ち往生したこともある。齊喜さんは「歩道の状況が分かる地図があれば安心して外出できる」と、東西6時、南北10時に広がる豊中市全域の歩道の調査を始めた。中学校教諭を務めていた2003年のことだ▲休日になると一人で調べ続けた。歩道マップの完成には11年かかり、歩いた距離は1000キロを超えた。ホームページで公開した地図では、縁石の高さ、車止めや側溝の有無、傾斜などを記号で説明している。障害者や高齢者が利用しやすいか一目で分かる▲鉄道やバスのバリアフリーが進み、障害者差別解消法などの法整備も進んだ。20年東京五輪・パラリンピックに向けて政府は今年、行動計画を策定した。障害者に優しい街づくりや思いやりの心を持つ教育を目指すものだ▲社会の意識は変わり、段差は低くなってきたように見える。それでも障害者が自宅から一歩外へ出るとまだまだ障壁は多いと、齊喜さんの地図が示している▲再調査を進めていた齊喜さんは昨年末、病気で倒れたが、行政は指摘を基にして歩道の改良を始めた。マップを見ていると、豊中市に限ったことではないことに誰しも気付くだろう。自宅の周辺や外出先から、車椅子にとって危険な歩道をなくしていく手がかりとなる。 2017・8・23

★五中生、がんばっています! PART7~クラブ表彰~

バドミントン部	第59回市民バドミントン大会 中学生の部	男子シングルス 第3位
---------	----------------------	-------------

